

## 当日のルアー船で見つけた 東京湾のシーバス釣りで 〇〇しがちなシーン

### ルアーがエビりがち



▲リーダーにフックが絡まる状態を「エビる」と言う。大きくシャクってルアーを跳ね上げると起こりやすい

### ルアーが散らかりがち

▶「当たりルアー」を探すため、カラーや形状の違うジグをローテーションし、ルアーが散乱してしまう



### 貝殻を釣りがち

▶巻き上げるとジグ+αの重さと抵抗感。魚ではない何かがつり掛かると思ったら貝殻だった。「今日はこれで2回目です」とトモキ

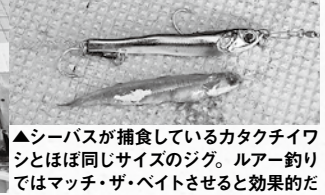
▼海上にそびえ立つ風の塔。その景観を残したく思わずスマホで撮影しまくるタカハシゴー



### ルアーを飲まれがち

▲シーバスは口を大きく開けて捕食するためルアーが飲み込まれることもしばしば。ルアーを外すと、口の中がベイトのカタクチイワシで満たされていた

### ルアーとベイトを比べがち



▲シーバスが捕食しているカタクチイワシとほぼ同じサイズのジグ。ルアー釣りではマッチ・ザ・ベイトさせると効果的だ



### ストラクチャーを撮影しがち



▲スイムベイトでもこのとおり

何も考えなくても戦略を立てても  
どちらも正解なシーバスジギング

気を吐いたのはイチロウだった。このところ、釣果でタカハシゴーに敗北しがちだったイチロウが、今回は完全にバッテリーをつかんでいる。

竿を曲げてはタカハシゴーにニンマリと笑いかけ、プレッシャーをかける。ジワジワと差を広げていく。

そう、これもシーバスジギングのおもしろさだ。簡単に釣れるのは間違いないが、そのなかでもしっかりと差がつく。イチロウはヨツシーさえ置き去りにして、今や東京湾のヒーローである。ちよつと風が弱まったと見るや分厚いジャケットを脱ぎ捨て、身軽になるとさらに釣果をのばしていく。

「早い段階で、『今日はゆっく

投入のたびに巻きスピードに変化を与えて、シーバスを飽きさせないのがコツだったかな」

おもしろかったのは、ヨツシーが試したジャッカル・ビッグバックカー・ワグシャッドだ。28グラムのヘッドにワーム（シャッドテール）をセットした、本来は陸っぱり用のスイムベイト

「入れ掛かりってほどではなかったけど、楽しめたよね。今日は巻きとフォールでアタリが半々。巻きで追いかけてくるけど食い切れず、フォールで掛かるっていうケースが多かったような気がする。

「しかも、僕にはフォールでのアタリはほとんどなくて、全部巻きでした。ゆっくりと一定速で巻く。タイラバみたいな釣りでしたね」

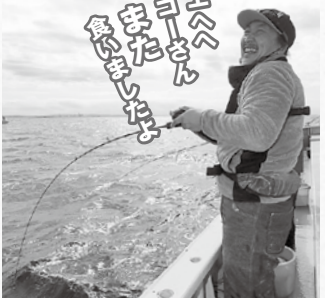
タカハシゴーは5本、初体験のトモキも同数、そしてヨツシーは色いろな釣り方にトライしての8本だった。

「横に泳ぐ軽いジグにコココンツと食ってきて、バシッと合わせが決まったときのおもしろさは、ジグとはまた違うもの。チャンスがあったらぜひ試してほしいな」。なんだかんだで、我われツリガチ取材班4名で計29本。しっかりとした釣果を出せた。

「何も考えなくても釣れてくれるのがよかったです」とトモキ「戦略立てて釣るのが楽しいよね」とヨツシー。コメントは正反対ながら、どちらも正解のだった。

「ウチはフリースタイル。色いろやってみて」という金子船長のお言葉に甘えてのトライだが、お客さんでも事前に「こういうルアーを使ってみたいんだけど」と問い合わせれば基本的になんでもOKだそう。

「おつ、金子船長、まさに太っ腹だね」とヨツシー。



▲シーバスがヒットするたびにタカハシゴーを見るイチロウ